

## 第4期科学技術基本計画レビュー(システム改革等)のための調査項目 一覧

◇ 第4期科学技術基本計画のレビュー(システム改革等)の取りまとめに当たって必要な情報収集・分析を行う。

### (1)第4期基本計画の進捗状況調査

- 基本計画の目的の達成のために実施されている関係府省等の施策の調査(施策の実施状況の整理)
- 施策の効果や基本計画の目的の達成状況を把握する上で必要と考えられる指標を整理し、指標に関するデータを収集・分析
- 施策及び指標情報を踏まえ、基本計画の進捗状況を整理・分析(基本計画の基本方針※の視点で包括的に実施)

### (2)第4期基本計画の推進の観点から特に重要と考えられるトピックに対する詳細調査

- 上記の基本計画の進捗の分析や、これまでの計画、戦略、提言等に現れる問題意識などを踏まえ、基本計画の推進の観点から特に重要と考えられる問題意識に関して「詳細調査」を実施(問題の所在や原因に関する仮説を立て検証)
- 基本計画レビューの内容をより効果的なものとするエビデンスデータを得る

### (3)主要国における科学技術イノベーション政策の動向等の把握・分析

- 世界各国の科学技術イノベーションに関する政策の動向や最新のトレンドも踏まえた先行取組事例について調査
- 我が国の世界の中での位置づけを確認し、我が国の国際的な強み、弱みを把握

### (4)我が国および国際社会の将来の社会像に関する知見の把握・分析

- 科学技術イノベーション政策に関わる将来の社会像の予測に関する知見を整備・分析(日本の状況を世界と比較しつつ整理する他、予測手法・予測根拠やプロセスを整理)
- 第5期基本計画の策定の検討に向けて活用しうる予測調査手法に関して検討

※今後の科学技術政策の基本方針(第4期科学技術基本計画第I章より)

「科学技術イノベーション政策」の一体的展開、「人材とそれを支える組織の役割」の一層の重視、「社会とともに創り進める政策」の実現

# イノベーション環境創出に係るレビューのための調査について

イノベーション環境創出に係る重点的取組の進捗とその成果を把握し、今後の政策誘導に活かすといったレビューを行うために必要な検討を行う

## 現状

- 重点施策として、予算及び制度の観点から35施策を取りまとめた。
- H27以降、当該施策を含め、我が国の科学技術イノベーション環境創出についてのレビューを行う必要がある。

## 課題

- レビューを行う前提として、我が国として「何を、どこまで」達成すればよいかという目標値（評価項目 & 指標）が欠落している。
- 同時に、我が国として当該目標値に向かって、いかなる工程で臨むべきかを明らかにする必要があり、政策誘導のためのエビデンスが必要である。

## 調査の方向性

H27以降のレビューと  
政策誘導に備える

### ☑ 評価項目 & 指標のモデル化

重点的取組ごとに、CSTPがその進捗と成果を測ることのできる評価項目 & 指標のモデル化を行う。

### ☑ 目標値試案の設定

重点的取組ごとに、我が国が目指すべき目標値試案の設定を行う。

### ☑ 工程表原案の策定

重点的取組ごとに、目標値に至るまでの工程表原案を策定する。

### ☑ 政策誘導に資する各省施策の濃淡と空白の分析

重点的取組ごとに、工程を満たす各省施策の濃淡と空白を明らかにし、政策誘導に活かす。

# イノベーション環境創出に係るレビューのための調査項目 一覧

◇ 本調査は、前述の調査の方向性に基づき、下記の調査項目を予定している。

## (1) 重点的取組ごとの主要国の先行事例

- 重点的取組ごとに、主要国における先行事例を調査
- 我が国においてイノベーション環境の創出に向けた取組の工程を策定する上での参考とする

## (2) 重点的取組ごとに想定できる評価項目 & 指標の体系化（モデル化）

- 重点的取組ごとに、その取組の進捗と成果を評価できるイノベーション評価項目と指標を設定
- 設定した評価項目と指標に基づき現状の把握に活用
- 今後、我が国のイノベーション環境創出に係る経年の評価モデルとして使っていくことを目的とする

## (3) 我が国の重点的取組ごとの現状の把握と将来目指すべき「目標値」の設定

- 上の「重点的取組ごとに想定できる評価項目 & 指標」に基づき、我が国の現状を分析し、強みと弱みを言及
- 我が国にデータがないものに関しては、今後のデータ収集方法等についても言及する
- さらに、我が国が2030年までに目指すべきイノベーション環境の「目標値」の仮説を設定する

## (4) 重点的取組ごとの「目標値」達成に至るまでの工程表原案の作成

- 我が国が2030年までに目指すべきイノベーション環境の「目標値」を実現するために必要なプロセスを描いた「工程表」原案の作成を行う。

## (5) 工程表に基づく各省施策の濃淡・空白の調査分析

- 先の「工程表」原案に基づき、我が国における各省施策の重複や偏り、さらに空白となっている部分を示唆することで、平成27年度以降の政策誘導に活用できるようにする。

# A(1)第4期基本計画の進捗に関するデータの収集・分析

- 基本計画の記載事項について、網羅的に、広く浅く、関連する指標データを収集する。
- 指標データには、定量的に把握可能なもの以外の指標(例:施策を講じた事実、運営事例)も含める。
- データ収集のステップは、以下の3段階で想定している。
  - － STEP1: 計画事項に関連する**施策の抽出・整理**
  - － STEP2: 進捗状況確認のための**指標設定・関連データ収集・整理**
  - － STEP3: 進捗状況や問題点の**整理・分析**
- STEP3の整理分析は、基本計画の小項目単位(36件)とそれを束ねた大項目単位(9件)で行う。

表 データ収集・分析の対象箇所

大項目 (A列)	中項目 (B列)	小項目 (C列)
II. 5. 科学技術イノベーションの推進に向けたシステム改革	(1) 科学技術イノベーションの戦略的な推進体制の強化  (2) 科学技術イノベーションに関する新たなシステムの構築	①「科学技術イノベーション戦略協議会(仮称)」の創設 ②産学官の「知」のネットワーク強化 ③産学官協働のための「場」の構築 ④産学官協働の強化に向けた環境整備 ⑤イノベーションの促進に向けた規制・制度の活用 ⑥地域イノベーションの構築 ⑦知的財産戦略及び国際標準化戦略の推進
III. 3. 重要課題の達成に向けたシステム改革 III. 4. 世界と一体化した国際活動の戦略的展開	(2) 国主導で取り組むべき研究開発の推進体制の構築  (1) アジア共通の問題解決に向けた研究開発の推進 (2) 科学技術外交の新たな展開	①我が国の強みを活かした国際活動の展開 ②先端科学技術に関する国際活動の推進 ③地球規模問題に関する開発途上国との協調及び協力の推進 ④科学技術の国際活動を展開するための基盤の強化
IV. 2. 基礎研究の抜本的強化	(1) 独創的で多様な基礎研究の強化 (2) 世界トップレベルの基礎研究の強化	
IV. 3. 科学技術を担う人材の育成	(1) 多様な場で活躍できる人材の育成  (2) 独創的で優れた研究者の養成  (3) 次代を担う人材の育成	① 大学院教育の抜本的強化 ② 博士課程における進学支援及びキャリアパスの多様化 ③ 技術者の養成及び能力開発 ④ 公正で透明性の高い評価制度の構築 ⑤ 研究者のキャリアパスの整備 ⑥ 女性研究者の活躍の促進
IV. 4. 国際水準の研究環境及び基盤の形成	(1) 大学及び公的研究機関における研究開発環境の整備 (2) 知的基盤の整備 (3) 研究情報基盤の整備	① 大学の施設及び設備の整備 ② 先端研究施設及び設備の整備、共用促進
V. 2. 社会と科学技術イノベーションとの関係深化	(1) 国民の視点に基づく科学技術イノベーション政策の推進  (2) 科学技術コミュニケーション活動の推進	① 政策の企画立案及び推進への国民参画の促進 ② 倫理的・法的・社会的課題への対応 ③ 社会と科学イノベーション政策をつなぐ人材の養成及び確保
V. 3. 実効性のある科学技術イノベーション政策の推進	(1) 政策の企画立案及び推進機能の強化 (2) 研究資金制度における審査及び配分機能の強化 (3) 研究開発の実施体制の強化 (4) 科学技術イノベーション政策におけるPDCAサイクルの確立	① 研究資金の効果的、効率的な審査及び配分に向けた制度改革 ② 競争的資金制度の改善及び充実 ③ 研究開発法人の改革 ④ 研究活動を効果的に推進するための体制整備 ⑤ PDCAサイクルの実効性の確保 ⑥ 研究開発評価システムの改善及び充実
V. 4. 研究開発投資の拡充		

## A(2)詳細調査の概要

### ○対象

基本計画に対して全体的・包括的に把握すべき事項など、進捗状況分析では十分な把握・理解が困難と考えられる事項について、我が国の科学技術イノベーションの推進において、重要な課題と認識されているものの課題解決に向けた進捗が滞っている、諸外国から見て我が国の弱みになっているなど、基本計画の推進に当たっての課題として特に重要であると認識されているものを対象とする。

### ○調査の観点

資金配分、人材の確保・育成、研究環境・基盤、産学官連携等の個別の施策分野にフォーカスするのではなく、科学技術イノベーションシステムの観点から調査設計を行う。

問題の所在や原因に対する仮説を立て、その検証を行う。

### ○調査の方法

期間やリソースの制約があるため、既存の調査結果を最大限活用する。

調査課題に応じて、指標の検討やデータ収集・分析、アンケート調査、事例調査、諸外国の事例との比較分析等、適切な調査手法を選択する。

### ○調査のアウトプット

先行調査を十分に活用して問題意識に対して要点を明らかにすることに重点を置く。

検討のためにより大規模な調査や、長い調査期間が必要な点は、次年度以降も引き続き検討が必要な事項として整理する。